

機能連携図（案）

機能連携図（案）は、現庁舎用地活用基本計画、過年度に行ったアンケート調査及びパブリック・コメントなどによる市民意見や施設所管課の意見を踏まえ、各機能連携を図示したものである。

図は複合公共施設内の機能及び施設周辺のまちづくりの方向性を踏まえた機能の近接性連携を表す。

今後は機能連携図（案）を基に各機能同士の関わりを考慮し、施設の形態形状検討・配置計画・動線計画を行う。

【機能連携図（案）の説明】

▼複合公共施設内

①窓口機能の連携

複合公共施設内すべての機能と連携を図る。
市民サービスコーナー、貸館受付、図書館受付（貸出・返却・レファレンス等）、公民館事業受付を含めた窓口機能を一箇所に集約することにより、利用者の利便性を図る。
ただし、図書館受付（貸出・返却・レファレンス等）については、図書館機能と隣接設置する必要がある。

②図書館機能

「静かに閲覧する場」と「多少の音を良しとする場」の整理する必要がある。
武道場やフリースペースからの音や振動の影響に考慮する必要がある。

③防災機能

施設内の機能を有効に活用し、避難所等としての利用を想定する。
（※地域防災計画において、「福祉センター・生きがいセンターとくら」及び「恋ヶ窪公民館・図書館」は二次避難所に指定されている。）

④託児機能

他諸室利用者による保育室での託児利用を想定する。

フリースペースと他機能

⑤図書館機能

利用目的を定めないフリースペースを本閲覧の場ともすることで、本の利用を促進する。

⑥スポーツ機能

武道場の観客席や弓道場利用者の休憩、ミーティングとしての利用など。

⑦多目的機能

活動の場を延長しての利用が期待できる。
例) こども食堂：多目的室で調理を行い、フリースペースで飲食する。
大部屋のホワイエとしての利用など。

▼周辺施設

A 恋ヶ窪駅－恋ヶ窪商店会

駅から商店街の流れに隣接する施設となるためこれらとの連携を重視する。
気軽に立ち寄って休める場、情報提供の場として利用。
まちの回遊性の向上。

B 恋ヶ窪商店会との連携

新たな交流や人の流れが生まれることで市民生活の質を高め、地域の向上が図られるような場の創出。
（参考）過去に現庁舎で行っていたイベント：ふれあいいち、はあとふるまつり 佐渡物産展

C 駅近の立地

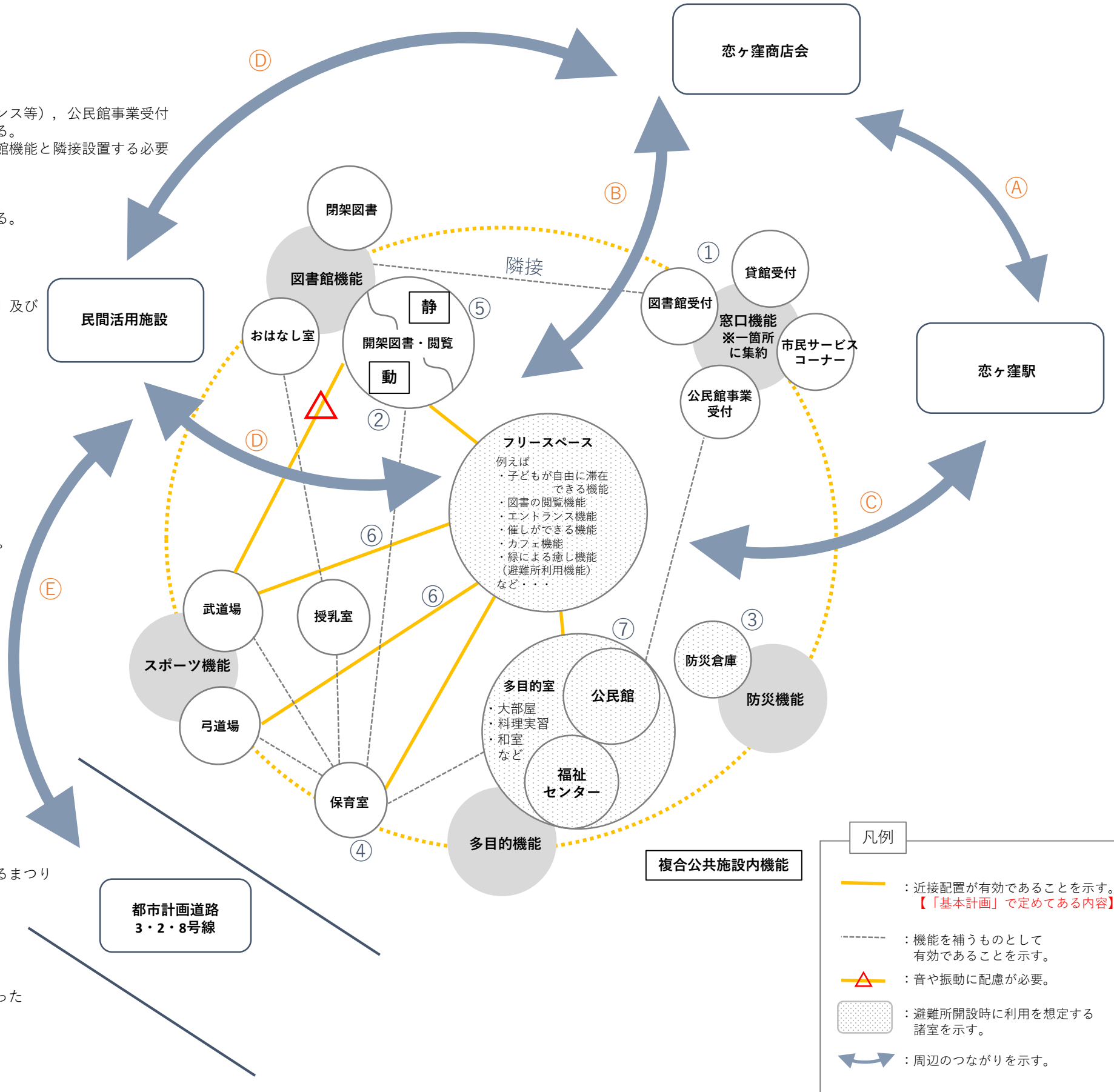
恋ヶ窪駅に近いことを生かし、幅広い利用者の増加を目指す。
災害時の帰宅困難者の支援も想定する。

D 民間活用施設と連携

隣地に建設予定の民間活用施設ともつながり（オープンスペース）をもった配置計画、動線計画を行う。

E 都市計画道路とのつながり

周辺の交通機関（駅・道路等）の流れを意識した施設を目指す。
帰宅困難者の支援も想定する。まちの回遊性の向上。



凡例

- : 近接配置が有効であることを示す。
【「基本計画」で定めてある内容】
- - - : 機能を補うものとして有効であることを示す。
- △ : 音や振動に配慮が必要。
- : 避難所開設時に利用を想定する諸室を示す。
- ↔ : 周辺のつながりを示す。